様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２７ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｈ０１６１９

研究課題名（和文）台湾先住民族の歴史経験への接近

研究課題名（英文）Approaching the Historical Experience of Taiwan's Indigenous Peoples

研究代表者
北村　嘉恵（Kitamura, Kae）

北海道大学・教育学研究院・教授

研究者番号：２０３２２７７９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　5,750,000円

研究成果の概要（和文）：　歴史的・社会的に周縁化されてきた人々の世界観や歴史経験をいかに形象化しうるか。その地点から、特定の他者を周縁化ないし不在化することによって構築してきた自己像や歴史認識をいかに更新し、新たな関係性の実践へとつなげていけるか。本研究は、このような問いを抱えながら近現代の台湾先住民族の歴史経験の形象化を追求した。とくに、帝国において公的に創り出される境界や秩序と私的に取り結ばれる関係性との交じり合いに着目し、文献調査、聞き取り、フィールドワークから得られた資料を相互批判的に活用して、個人史・家族史を主軸とする通史像の輪郭を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、個別具体的な歴史経験に即して植民地社会におけるマクロとミクロの権力作用を解明し、主体と構造の関係性の析出するための方法論の深化に寄与する。これは、これまで一方的に観察され記述されてきた人々の歴史を書き直していく重要なステップである。また、既存の教育学や歴史学が無視または均一化してきた経験を語るための新しい言葉や認識の枠組みについて新たな議論を開く。これらを通じて、現代の日本社会や世界各地で継続する人種主義や植民地主義の現実的地盤を掘り崩していくための洞察を提示する。

研究成果の概要（英文）：　How can we represent the historical experiences of people who have left no words or writings about themselves? From this point, how can we renew the historical perspective and understanding of self and other that have been constructed by marginalizing or excluding certain people, and develop a new relationship among them? As an attempt to address these fundamental questions, this research explores the historical experiences of Taiwan's indigenous peoples.
This study utilizes a variety of historical sources, including colonial archives, ego-documents, oral histories, and field research to trace the trajectories of individuals and families of Taiwan's indigenous peoples. By integrating these diverse sources, we aim to reconstruct polyphonic histories, which represent the different experiences and perspectives of Taiwan's indigenous peoples.

研究分野：教育史

キーワード：先住民族の近代史　ライフヒストリー／生命史　歴史記憶　植民地戦争　修学経験　脱帝国化　ジェンダー　台湾

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

歴史的・社会的に周縁化された地点からその世界観や歴史経験を形象化し、マジョリティ中心の歴史認識や他者像を更新していくことは、いかにして可能なのか。自ら記録を残さなかった人々の視点から歴史を理解しようとする試みは、歴史学のみならず諸学問領域を通じて多面的に蓄積されてきた。

こうした論議にひとつの新局面を切り拓いたのが、G.C.スピヴァクの提起した「サバルタンは語ることができるか」という問いである。スピヴァクは、従属的地位に置かれた者の側から支配的言説への異議申し立てとして 1980 年代以降インドで生起したサバルタン研究に対して、「サバルタン」を実体化することの陥穽を見据えつつ「サバルタンは語ることができない」と言い切り、支配的言説を脱構築していく回路について考察を深めた。その企ては、他者を表象するという営為に関わるラディカルな問題提起としてなお意義を失っていないと同時に、非主体化されてきた人々を歴史的・社会的な主体として復原する試みの困難さをも鮮明に示している。

重要なことは、「サバルタンのなかのサバルタン」を際限なく見出していくことではなく、他者表象の不可能性という地点に留まり、結果として支配集団本位の歴史像を温存することでもない。発現を不可能ならしめている諸条件を可能性へと絶えず転じながら、承認と差異化、親密さと暴力性、離脱と被拘束が重層する関係性に分け入り、既存の知の体系を組み替えていくことが必要だ。

２．研究の目的

本研究は、台湾先住民族の歴史経験に焦点を据えて、東アジアにおける植民地主義の展開過程を個人史・家族史の観点から再構成しようとするものである。すなわち、帝国内の秩序を維持し植民地支配を正当化するうえで、日常生活の次元で民族、ジェンダー、社会階層のポリティクスがどのように複合し機能してきたのかを検証すると同時に、そのような磁場を生きた個々人や家族の文脈に着目することにより先住民を主体とした歴史叙述を追究する。19 世紀後半から 20 世紀後半までの時期に生起した個別具体的な事象に即して植民地支配を支えたマクロおよびミクロな権力作用の連関を読み解くことにより、今日の日本社会および世界各地で複雑さを増しつつ継続する人種主義の問題構造を批判的に再考するための視座を提示するものである。

３．研究の方法

本研究は、上述の目的にもとづき以下の 3 つ作業課題を設定した。

・台湾先住民の異民族間婚姻に関わる規制とその実態の解明
・植民者と婚姻・内縁関係を結んだ台湾先住民のライフヒストリー構成
・植民地主義の歴史を台湾先住民の個人史・家族史を主軸として再構築する

当初の予定では、植民地台湾における「混血児」の処遇に関する法的枠組みと実態の解明に取り組み、カナダおよびアメリカ合衆国北部国境地帯の先住民の異民族間婚姻および「混血」をめぐる処遇の歴史過程との比較史的検討を行うことも予定していたが、新型コロナウィルス感染症の影響により先送りせざるを得ず、先住民族自身による歴史記憶再構築の諸実践について理論的考察を深めることとした。

以上の課題を追究するため、本研究では、暴力、親密さ、記憶、植民地戦争、歴史的トラウマといった諸概念について理論的・事例的検討を重ねるとともに、国内外での文献調査・聞き取り・フィールドワークなどから得られた資料を相互批判的に活用して基礎的事実の追求を進めた。この間、少人数でクローズドの研究会において密度の濃い議論を重ねるとともに、１年目から領域横断的な研究会や国内外の学会・シンポジウム等で中間的・個別的な研究報告を行い、それらをとりまとめて学会誌や学術書（共著）として日本語・中国語・英語で順次公刊したほか、単著としてとりまとめる準備を進めた。

４．研究成果

(1) 先住民族の歴史記憶再構築

台湾先住民の近現代史の叙述のあり方について、この四半世紀に台湾社会で大きな展開をみた歴史記憶再構築の諸実践を整理し、新たな視点や方法の特徴および継続的な課題を明らかにした。その際、外来者との遭遇・交渉の歴史経験をいかに表象するかが先住民史にとって切実な課題となることから、近年の歴史学界で重要性の指摘される「植民地戦争」という概念がどのような有効性と限界をもつかを考察した。

また、霧社事件の表象を主題とする国際シンポジウムをもとにした学術論文集の出版企画に加わり、台湾先住民史研究のなかでは例外的に蓄積の分厚いこの出来事について、セデック女性の経験に即して「事件」の捉え直しを試みた論考をとりまとめ、中・英の両言語で出版した。

(2) 台湾先住民の異民族間婚姻に関わる規制とその実態の解明

婚姻・家族制度の様態と変化について、理論および史的実証の手法に目配りをしながら日・華・英語圏の研究蓄積を集中的に渉猟した。とりわけ、社会的に外部とみなされた者や寄留者・移住

者との性的関係や婚姻関係をめぐり、女性や子どもの地位および処遇、結びつきの流動性や連鎖性を捉えるための方法と史料の可能性について重点的に検討を進めた。

（3）植民者と婚姻・内縁関係を結んだ台湾先住民のライフヒストリー構成

20 世紀への移行期に北部台湾に生まれ育った一人のタイヤル女性に焦点を据えて、そのライフヒストリーの再構成に取り組んだ。残された史料の断片性、その中の過剰と不在の不均衡さを慎重に吟味しながら、出郷、婚姻、修学、就職などのライフイベントに関わる基礎的事実をつぶさに掘り起こすことを通じて、私的に取り結ばれた関係性と公的に創り出された境界や秩序の交錯、同時代の先住民女性たちの経験との分岐点などを浮かび上がらせる叙述へとつなげることができた。

また、台南近郊の先住民族シラヤの系譜に連なる一家が継承する「家庭族譜」や手記類と、同地域のキリスト教会や小学校が所蔵する帳簿類の分析を進めた。家族や組織が個別に引き継いできたこれらの資料を公文書や雑誌新聞記事などと重ね合わせて読み解くことで、複数の文字・言語を身につけつつ外来の新たな動向を機敏に捉え返していく家族の軌跡を明らかにし、個別の選択やその帰結を地域社会／台湾島／日本帝国／アジア圏の複層的な構造のなかで考察することが可能となった。

以上の成果の一部は論文にまとめて学術雑誌に掲載されたほか、それぞれの調査地や協力者へのフィードバックを行い、さらに掘り下げるべき課題や新たに追究すべき事象について整理を行った。

（4）植民地主義の歴史を台湾先住民の個人史・家族史を主軸として再構築する

政治史・制度史的な分析と複数の個人・家族のライフヒストリーを有機的に再構成し、通史的な見通しのもとに単著としてとりまとめる準備を進めた。シリーズ「問いつづける民衆史」（全 11 巻）の一冊として 2024 年度中に刊行予定である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 北村嘉恵	４．巻 13
２．論文標題 台湾先住民女性の帝国経験――出郷・婚姻・修学・還郷	５．発行年 2023年
３．雑誌名 境界研究	６．最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14943/jbr.13.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 北村嘉恵	４．巻 765
２．論文標題 「植民地戦争」再考ーー台湾先住民族の歴史記憶再構築の地点から	５．発行年 2022年
３．雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	６．最初と最後の頁 42-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15002/00025814	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 洪郁如、北村嘉恵、新田龍希	４．巻 25
２．論文標題 SPECIAL 対談　誰の台湾史ーー生きられた歴史からの問い	５．発行年 2023年
３．雑誌名 ワセダアジアレビュー	６．最初と最後の頁 48-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 北村嘉恵	４．巻 857
２．論文標題 植民地社会のなかの修学経験――台湾南部のある家族の軌跡	５．発行年 2021年
３．雑誌名 歴史評論	６．最初と最後の頁 16-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 北村嘉恵	4．巻 61：2
2．論文標題 書評　中村平著『植民暴力の記憶と日本人――台湾高地先住民と脱植民の運動	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アジア経済	6．最初と最後の頁 86-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/ajiakeizai.61.2_86	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 北村嘉恵	4．巻 129：5
2．論文標題 〔2019年の歴史学界　回顧と展望〕台湾	5．発行年 2020年
3．雑誌名 史学雑誌	6．最初と最後の頁 248-251
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 北村嘉恵	4．巻 17
2．論文標題 試探臺南新化楊罔之生命歷程：20世紀前期臺灣女性的就學與教育經歷	5．発行年 2019年
3．雑誌名 歷史臺灣	6．最初と最後の頁 7-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 北村嘉恵	4．巻 79
2．論文標題 非対称な戦争の記憶を掘る――台湾先住民族の歴史経験と日本社会	5．発行年 2024年
3．雑誌名 北海道女性研究者通信	6．最初と最後の頁 19-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　2件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 北村嘉恵、洪郁如
２．発表標題 誰の台湾史――生きられた歴史からの問い
３．学会等名 早稲田大学台湾研究所ワークショップ（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 北村嘉恵
２．発表標題 臺灣原住民女性的歷史經驗初探：以Yayutz Bleyh為中心
３．学会等名 府城深耕五十年、成就世界續百年：成功大學2019台灣史國際學術研討會（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 北村嘉恵
２．発表標題 帝国日本における近代学校の偏在・遍在　―台南・新化の教育再編過程と公学校
３．学会等名 日本台湾学会第21回学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Kae Kitamura
２．発表標題 War and Sexuality: Sexual Encounters on the Process of Japanese Colonization of Taiwan
３．学会等名 Association for Asian Studies 2023 AAS-in-Asia（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計7件

1．著者名 岩城卓ほか編	4．発行年 2022年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 388
3．書名 論点・日本史学	

1．著者名 Michael Berry (ed.)	4．発行年 2022年
2．出版社 Columbia University Press	5．総ページ数 312
3．書名 The Musha Incident: A Reader on the Indigenous Uprising in Colonial Taiwan	

1．著者名 白睿文編	4．発行年 2020年
2．出版社 麥田出版	5．総ページ数 592
3．書名 霧社事件――台灣歷史和文化讀本	

1．著者名 許佩賢編	4．発行年 2020年
2．出版社 國立臺灣大學出版中心	5．総ページ数 464
3．書名 帝國的學校・地域的學校	

1．著者名 藤原辰史編（北村嘉恵第II章分担執筆）	4．発行年 2019年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 254
3．書名 歴史書の愉悦	

1．著者名 宮﨑隆志ほか編（北村嘉恵第III章分担執筆）	4．発行年 2019年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 193
3．書名 ともに生きるための教育学へのレッスン40　―明日を切り拓く教養	

1．著者名 洪郁如，北村嘉恵，構成=新田龍希	4．発行年 2023年
2．出版社 早稲田大学台湾研究所	5．総ページ数 25
3．書名 誰の台湾史――生きられた歴史からの問い	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関